

喜連川足利氏 誕生の地



栃木県

さくら市

さくら市は平成17年3月28日に塩谷郡氏家町と喜連川町が合併してできた市です。

栃木県の中央部のやや北東にあり、県都宇都宮市に隣接、また東京から直線距離で120 kmのところにあります。

当市は、日本三大美肌の湯・喜連川温泉や道の駅きつれがわ、観光りんご園、ゴルフ場等の多数の観光施設もあります。自然豊かで多くの河川と肥沃な大地から県内有数の穀倉地帯でもありながら、交通の要衝地として便が良く商業の発展もしています。

さくら市は足利氏との縁が深い土地です。戦国末期、足利尊氏の流れをくむ、古河公方と小弓公方の婚姻とさくら

市喜連川の移住によって誕生したのが、喜連川足利氏でした。江戸時代を通して治めた跡を、現在も城下町の風情や文化財などで見ることが出来ます。

歴代藩主の菩提寺の一つ龍光寺には、土塁に囲まれた中に歴代將軍の供養塔や藩主墓牌、石塔60基が並ぶ歴代墓所や長寿寺（鎌倉）の像を模刻した足利尊氏像があります。また喜連川足利氏の命により整えられ、散策にも使われる御用堀、寒竹囲い生け垣など



喜連川藩主足利家歴代の墓所（龍光寺）

も見ることが出来ます。更により深く喜連川足利氏の歴史を学べるさくら市ミュージアム〜荒井寛方記念館〜もあります。

会員：さくら市、喜連川商工会、喜連川観光協会、龍光寺

●さくら市観光ナビ

<https://sakura-navi.net/>



尊氏尊信 伝承の地



栃木県真岡市

能仁寺

真岡市は栃木県の南東部に位置し、県都宇都宮から東南20kmに位置しており、人口約6万人のまちです。

真岡市内には古い歴史を偲ばせる文化財が多く存在しております。その中に足利氏とゆかりの深い『能仁寺』があります。

元応2年（1320）7月9日の夜15歳の尊氏は、夢の中で下野国芳賀郡根本の境沢と称す



能仁寺

るところの土を3mあまり掘り、という異形の僧のお告げを得ました。その場所からは、自然石に刻まれた下部に、白黒2匹の蛇がからみつくような奇妙な形の尊像が出されました。尊氏は深くこの2体の尊像を尊信し、持仏として戦場に臨んだといわれています。

後、ここに一字を建て安置しこれを境沢の観音堂といい、その境沢の観音堂の守護のため康永2年（1342）愛宕下に能仁寺を創建しました。